

すべての人を歓迎します！

発行責任者：代表／チャプレン 和氣敏治(工学博士)
特別相談役 中野雄一郎(MOM代表)

「OCC がん哲学外来・カフェ in 御茶ノ水 Medical Town」



順天堂大学医学部病理・腫瘍学
教授

樋野興夫

人生邂逅の三大法則は、「よき師、よき友、よき読書」であると考えます。そして、人生は開いた扇のようである。人生における出会いは、出会った時に受ける影響だけに留まらず、20～30年後に影響してくることがある。

私の生涯に強い印象を与えたひとつの言葉がある。「ボーイズ・ビー・アンビシャス」(boys be ambitious)である。札幌農学校を率いたウィリアム・クラークが、その地を去るに臨んで、馬上から学生に向かって叫んだと伝えられている言葉である。もちろん、当時の私は、クラークのことも札幌農学校のことも知らず、クラーク精神が新渡戸稲造(1862-1933)、内村鑑三(1861-1930)という、後に私の尊敬する2人を生んだことも知らぬまま、ただ、小学校の卒業式で、来賓が言った言葉の響きに胸が染み入り、ぽっと希望が灯るような思いであったものである。これが私の原点であり、そして19歳の時から、自らの尊敬する人物を、静かに、学んできた。その人物とは、南原繁(1889-1974)であり、上記の新渡戸稲造、

内村鑑三であり、また、矢内原忠雄(1893-1961)である。

『教養ある人間とは、「自分のあらゆる行動に普遍性の烙印を押すこと」であり、「自己の特殊性を放棄して普遍的な原則に従って行為する人間」のことである。それは人間の直接的な衝動や熱情によって行動する代りに、つねに理論的な態度をとるように訓練されることである。』(南原繁著作集第3巻より)。「練られた品性と綽々たる余裕」は「教育の真髓」である。「責務を希望の後に廻さない、愛の生みたる不屈の気性」が「人生の扇の要」の如く甦る。「ビジョン」は人知・思いを超えて進展することを痛感する日々である。

すべての始まりは「人材」である。行動への意識の根源と原動力をもち、「はしるべき行程」と「見据える勇氣」、そして世界の動向を見極めつつ、高らかに理念を語る「小国の大人物」出でよ！

現在、御茶ノ水のOCCで、月1回「がん哲学外来・カフェ」が開催されている。いまや、OCCは、Medical Townにおける、『対話学』の実践の「21世紀の操練所」であり、「医療維新の事前の舵取り」の『器』ではなからうか!?

TPCは「日本と世界のリバイバル」 を目指します

- (1)閉塞感のある日本のキリスト教界に元気を与える。
- (2)毎日、礼拝を捧げ、祈り会をおこなう
- (3)超教派として活動する
- (4)伝道、学びなどのために貸室を提供する